



日章学園九州国際高等学校校長便り 神無月

建学の精神：道義に徹し、実利を図り、勤労を愛す

学園スローガン：やり抜く力

学校教育目標：国際的視野と人間性豊かな心を持ち、自ら学び考え、自己の課題を解決できる生徒を育成する。

令和3年(2021年)10月1日(金) 校長 屋田伸仁



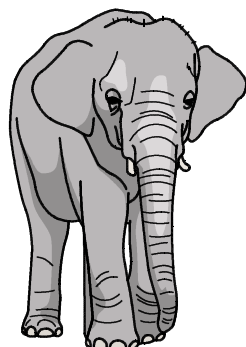
TOKYO 2020  
PARALYMPIC GAMES



## パラリンピック vs ゾウ

8月、9月はパラリンピックがありました。体の障がいを持ち乗り越えて挑戦する選手達の姿は多くの人々に大きな感動と勇気を与えてくれました。そして、人間に壁や限界ってあるんだろうかと思いました。

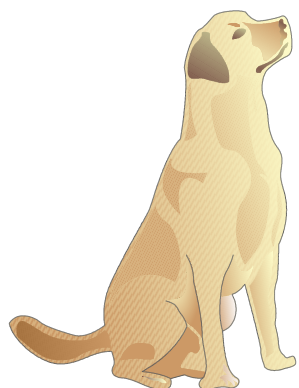
「ゾウと小枝」という話があります。インドのサーカスでは、子どものゾウをしつけるために、足を頑丈な木につなぐそうです。子ゾウは逃げだそうと必死にしがきますが、木はびくともしません。子ゾウは考えます。「いくら頑張っても逃げることはできないんだ。」その後、成長して大きな大人のゾウになっても逃げようとはしません。逃げることをあきらめています。たとえ、小枝であっても、逃げるのは無理だ、ダメだと決めつけてしまうのです。



ゾウは、なんて愚かだろうかと思いませんか。では、私たちは「これは無理だ、ダメだ。」と決めつけていることはないだろうか。自分の想像の世界で、限界を決めて、見切りをつけていないだろうか。壁や限界を超えてがんばるパラリンピック選手達から学びたいものです。そういう私も60代も半ば近くになって、記憶力や視力の衰えを理由に学習努力を怠っていないか。ぜひ、11月の中国語検定3級試験に向けて、一念発起して、がんばりたいと決意を新たにすることでした。

いよいよ、実りの秋、収穫の秋の到来です。生徒の皆さん、学びの秋に全力投球でがんばりましょう。

## Every dog has his days.



6月に全校生徒で、「みやざき動物愛護センター」に行きました。センターで開催されている「いのちの教育」の授業を受けました。人と動物との関わりや共生のあり方について学びました。

しかし、現実社会では、飼い主の都合で、ペットを遺棄したり、動物虐待があったり、殺処分も行われているという悲しい事実も知りました。そこで、センターでは、野良猫の去勢・不妊手術や、保護された犬猫の譲渡会も開催しているそうです。人と動物が共生できる社会づくりに積極的に取り組んでいるセンター職員の方々を見て、生徒達の中には、自分達でもできることはないだろうか真剣に考える生徒もいました。動物愛護センターの研修は、人間と動物の共生について、考えるいい機会になりました。



さて、英語のことわざに、Every dog has his days. というのがあります。どんな犬も自分の日を持っている。すなわち、どんな犬にも、運のいい日があるという意味です。ということは、もともと、犬は悲惨な日の方が多いととれます。英語の慣用句にも、die like a dog は悲惨な死に方をする、go to the dogs は落ちぶれるという意味もあります。そんな犬でも、いい日があるのだから、自分是不幸続きだと嘆いている人も、いい日が自分にも来るはずだと考えた方がよいと教えてくれます。更に言うと、不幸よりも、幸運を信じて待っている人の方に幸運が転がり込んで来るような気がします。

ところで、人間も犬との共存で、犬に癒やされ、安らぎと潤いのある生活がもたらされているのも事実です。

Every dog has happy days with human life. であり続けたいですね。

